

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 102-8081  
 住 所 東京都千代田区九段南1-1-10 九段合同庁舎  
 氏 名 国家公務員共済組合連合会 印  
 理 事 長 尾 原 榮 夫  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	国家公務員共済組合連合会		
主たる事務所又は 事業所の所在地	神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷1-3-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	P	医療、福祉
	中分類	85	社会保険・社会福祉・介護事業
主たる事業 の内容	一般病院		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,809	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	総務部総務課、管財・営繕部営繕課
		所在地	東京都千代田区九段南1-1-10 九段合同庁舎
		電話番号	03-3222-1841
		FAX番号	03-3222-3710
		メールアドレス	soumuka@kkr.or.jp、eizen@kkr.or.jp
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	蒸気の管理、空気調和の管理、照明設備の管理を行うことによってエネルギー損失の低減、高効率機器の導入を行い温室効果ガスの削減を図る。 詳細は指針様式第1号（第4面、5面）のとおり。
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	無し
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	・敷地内の木々の維持管理を行う。 ・ゴミの分別化を推進を行う。 ・詳細は指針様式第1号（第6面）のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

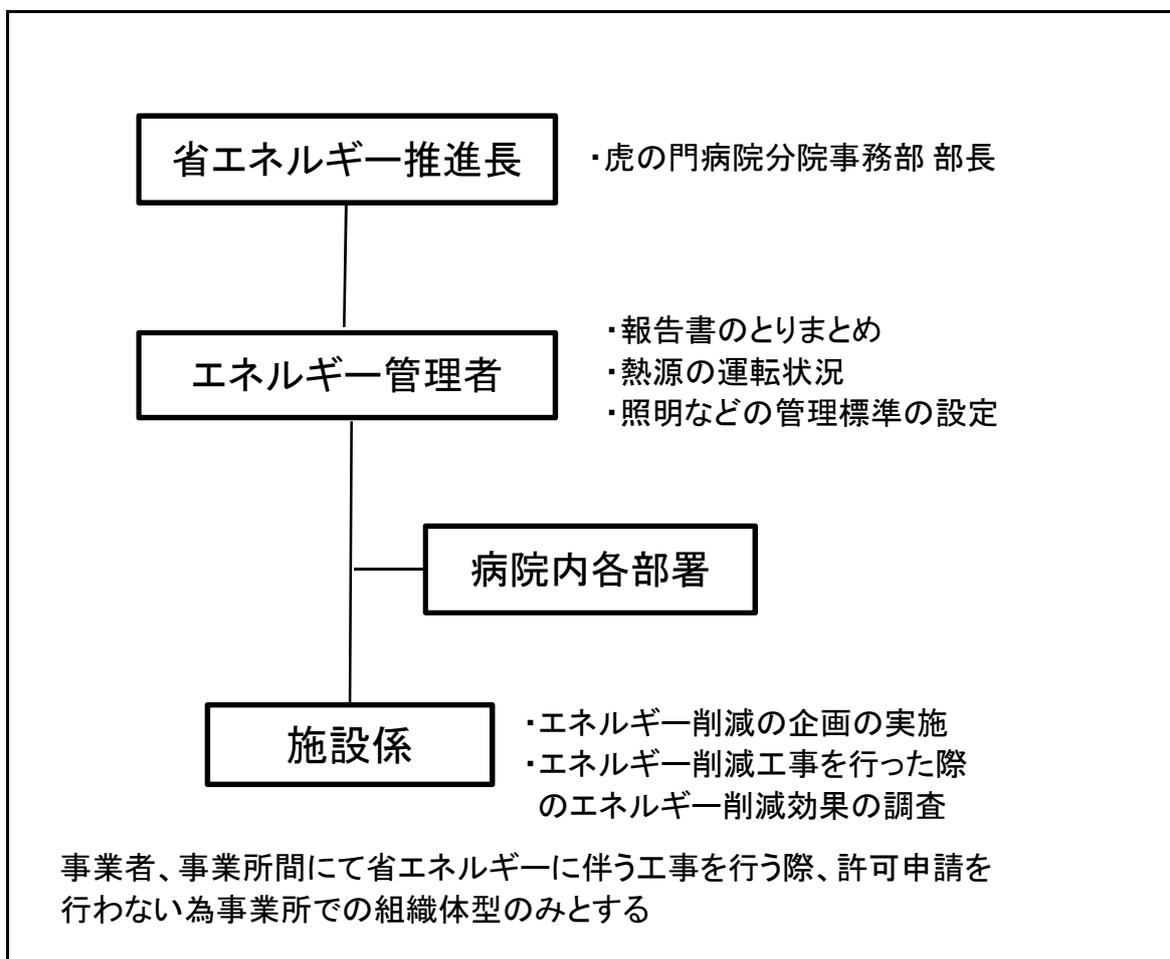
### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### 事業者の温室効果ガス削減の基本方針

- ・高効率機器の導入を進める。
- ・エネルギーの損失を減らす。
- ・照明や機器の運転、メンテナンスの管理標準を作成し適切な管理を行う。

以上の事を基本方針に定め、温室効果ガスを年 1%の削減を目標とする。  
また、上記の事業者の基本方針は事業所にも適用し削減を行う。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 3,267 (調) 2,966 t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 3,258 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 0.3 %	削減量	(実) 9 t-CO <sub>2</sub>

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量		単 位	
基準年度の値		目標年度の値	
削減率		%	
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

温室効果ガスの排出量の削減を図るため、3年間で229.13 t-CO<sub>2</sub>の削減を目標とする。  
 機器の増加等によりCO<sub>2</sub>排出量が3年で219.69 t-CO<sub>2</sub>増加すると予想し、実質削減量を3年間で9.44 t-CO<sub>2</sub>を目標とした。  
 インバーターポンプの利用、LED電球の利用や高効率熱源機器の導入等によりエネルギーの利用効率を上げ、換気量の調整やスチームトラップの適切な維持管理によりエネルギーの損失を減らす事により温室高ガスの削減を行う。  
 またガス、電気の月別使用量をグラフ化し公表することにより現在のエネルギー使用量の状態を把握し温室高ガス削減の意識を高める。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>○蒸気の管理 スチームトラップの管理標準を作成し、年 2 回全数点検を行うことにより蒸気のエネルギー損失を削減する。</p> <p>○空気調和の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバータ付ポンプの効率的な運用を行う。</li> <li>・バルブにて流量調整を行っているポンプのインバータ化。</li> <li>・外気暖房、外気冷房の適切化</li> <li>・空調機のウォーミングアップ時間を季節ごとに設定を行う。</li> <li>・中間期の外気冷房、外気暖房を行う。また風量の低下を防ぐため吸気口の清掃を年 2 回行う。</li> <li>・コージェネレーションシステムの排熱を効率的に運用し、エネルギー効率を高める。</li> <li>・換気の管理標準の作成</li> </ul> <p>○照明設備の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白熱球を LED 化、蛍光灯化を図る。</li> <li>・非 HF 蛍光灯使用箇所 HF 蛍光灯への更新</li> <li>・昼光の利用を積極的に行う。</li> <li>・不連続使用区域への人感センサー導入</li> </ul> <p>○発電設備の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CGS の効率的な運転</li> </ul> <p>○体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス、電気の使用量のグラフ化及び分析を行う</li> <li>・温室効果ガス削減に向けた体制を整える</li> </ul>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラーライトの導入計画。</li> <li>・太陽光発電の導入計画</li> </ul>
---

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然ガスコージェネレーション設備を導入し、年間約 1207MWh の電気と 1813GJ の熱を生成している。天然ガスコージェネレーションシステムを導入しなかった場合の代替システムである「一般電気事業者からの売電+天然ガスボイラによる熱生成」と比較するとCO2削減効果は230t/年と見積もられる。(平成20年度調査)</li> <li>・誘導灯を蛍光灯タイプより高輝度LEDタイプへ切替</li> <li>・トイレの照明、換気扇へ人感センサの導入(8カ所)</li> <li>・スチームトラップの更新を行い蒸気漏れを改善(10カ所)</li> <li>・不要照明消灯運動の展開</li> <li>・9月末までのノーネクタイの推奨</li> </ul>
--

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

無し

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- ・敷地内の木々の維持管理を行う。  
病院敷地内の木々を年間を通して植木屋に定期メンテナンスを依頼し維持管理を行う。
- ・廃棄物の分別化の推進を図る。  
可燃、不燃、資源、感染性廃棄物、産業廃棄物を病院内にて分別を行う。  
廃棄物回収の際には廃棄元がわかるようにし、一箇所に収集を行い  
廃棄物の種類により分別を行う。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	3,267	t-CO <sub>2</sub>
(調)	2,966	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
虎の門病院分院	高津区梶ヶ谷1-3-	8311	一般病院	3,267 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500kl 未満	
300~400kl 未満	
200~300kl 未満	
100~200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--